

# まちの史跡めぐり

201

## 猿田彦大神と庚申尊天

町文化財専門委員 石瀧 豊美

しても悪霊退散(悪いことを追い払う)や幸福招来(良いことを招き入れる)の意味があります。

村は現在の大字に当たりますが、この場合の村境は村と村の境界線というより、集落と外部との境と考えた方がいいでしょう。集落の出入りに当たる場所、あるいは三つ角、四つ角など、道と道が交差するところに石碑が立っていることがよくあります。悪霊が外部から集落に入らないように立ち塞がって守られている神、という意味があります。

本書紀では衢の神とされ、中世には、庚申信仰や道祖神と結びついた」と説明しています。「衢」は四つ辻、十字路の意味です。

猿田彦神はいわゆる天孫降臨の神話で、高天原から地上に降り立ったニギノミコトの道案内をした神とされています。それで道や境目と結びつくことになったのでしょう。庚申(コウシン)は十干十二支のひとつで、申年が12年に1回めぐってくるのに対し、庚申の年は60年に1回めぐってきます。また、60日に1回の割合で庚申の日もめぐってきます。古くはこの庚申の日の夜は、寝ている間に体内の虫がその人の悪事を天帝に報告するとされることから、それを恐れて夜通し眠らないという風習がありました。それが庚申信仰で、地域ごとに庚申のお祭りをするグループ(講)が組織されていたりもしました。庚申信仰は中国から伝わった道教に由来するものとされています。庚申の日はほぼ1年に6回めぐってくることとなりますが、庚申塔は

「庚申講を3年18回続けた記念に建立されることが多い。」ということですが(ウィキペディア「庚申塔」)。

町内の路傍の石碑をいくつか紹介しましょう。

写真①は上須恵橋近く、左谷に向かう三つ角にある高宮集会所の遠景です。満開の桜の木の下に三つの石碑が見えます。

写真②で右が「猿田彦大神」、中が「五穀神」、左が追分石です。追分石は道標・道しるべのことで、右へ道、左へ道などと方向と目的地が記されています。この写真では上部に右下部に道と大きく書かれていますのがわかります。その中間が2行に分けて、右側に「宇美」と見えますが、左側の文字(地名)は読み取れません。向かって左側の面には「左」と書かれ、その下にやはり2行に分けて地名が書かれています。右側ですが、読み取れませんが、このところは草に隠れています。五穀は米・麦・粟・稗・豆などの五種類の穀物の意味ですが、必ずしも固定したものではありません。

須恵町だけでなく、県内の各地で路傍に「猿田彦大神」とか「庚申尊天」と彫られた石碑をよく見かけます。「庚申塔」とか「庚申塚」と呼ばれるものひとつです。路傍に立つこれらの石碑をまとめて「道祖神」と言うこともあります。

『日本国語大辞典』は「さいのかみ」に「道祖神・幸神・斎神・塞神」の字を当てています。また『デジタル大辞泉』は「さいのかみ」に「道祖神・障の神・塞の神」の字を当て、「さいえ」は遮る意、悪霊が侵入する

のを防ぎ、通行人や村人を災難から守るために村境・峠・辻などに祭られる神。みちの神・たむけの神・峠の神・岐の神・道祖神・さいの神などの言い方がある。」と説明しています。「さいえぎる」神が「さいのかみ」となり、「さい」がなまって「さい」となり、「さい」から「さいわい」を連想して「幸の神」となるような変化が考えられますが、長い間にいろいろな信仰が混じり合い、日本各地でさまざまな形に変化していったということだと思います。いずれに

また、猿田彦神、庚申信仰、道祖神は本来は別の由緒を持つものですが、中世に混じり合ったとされています。猿申(十二支の「さる」は「去る」に通じるので、災いを「去る」として信仰を集めることにもなりました。

たとえば『デジタル大辞泉』の「猿田彦神」の項に「日本神話の神。瓊瓊杵尊の降臨に際し道案内をした怪異な容貌の神。のち、伊勢国五十鈴川のほとりに鎮座したという。日

く、稗の代わりに黍が入ることもあるようです。また、五穀豊穡が、五穀のみの豊作を指すわけではないのはもちろんで、五穀は農作物を象徴的にとらえていることになりました。「五穀神」の碑は豊作を祈念した石碑です。

写真③は古宮交差点の石碑です。左側は仏をあらわす梵字を刻んだ板碑と言われるものです。上下2段に梵字がいくつかが刻まれています。写真④が梵字の部分(下段)です。右側の石碑にも文字が刻まれています。読み取れませんが、

写真⑤は一番田交差点の「猿田彦大神」です。裏に「明治六癸酉五月吉日」と建立年月日(1873)が刻まれています。明治6(1873)年は十干十二支の癸酉(キユウ)の年で、大干(おほひ)に襲われました。6月に筑前竹槍一揆が起きた年です。

写真⑥は天神ノ木交差点から一番田交差点へ向かって、須恵川を熊本橋で超えて、坂の上り口で右へ折れ上須恵方面へと向かうと、左手にある「猿田彦大神」です。写真⑦は皿山公園へ向かう途中、宝満神宮寺の石垣のすぐ手前にありました。「猿田彦大神」と書かれた2本ののぼりの間にしめ縄を張った石が置かれていたのですが、石に文字が刻まれているかどうかは確認できませんでした。

